



みなみ青指だより

南区青少年指導員協議会

南区青少年指導員協議会研修会開催

令和3年5月16日(日)に南区青少年指導員協議会研修会が開催されました。

今年度の研修会は、昨年度コロナ禍の中ほとんどの事業が実施できなかったことを踏まえ、今年度の青指事業の見直しをテーマに、各地区3名までの参加とし、6グループに分かれて、3密を避ける形で開催されました。内容はふれあいキャンプ、ボイス・オブ・ユース等の今後のあり方や実施方法等について、意見交換を行いました。



グループ討議

グループ討議では、各事業ごとにあり方の検討とどうやれば実施可能かなどについて話し合いが行われました。それぞれの事業で各グループから出た意見をまとめました。

まず、会議(地区会長会、活動部会、広報部会など)については、感染対策をとって短時間で行えば従来通りで問題はないという意見が出されました。

ふれあいキャンプは、バスでの移動、テントでの生活、食事の準備などコロナ禍では難しいので、短時間で行うことができるハイキングや、ウォークラリー、アスレチックなど意見が出ていました。



▲ 距離を保っての話し合い

桜まつりや南まつりについては、従事者を減らし感染防止等の対策を徹底したうえで実施という意見もありましたが、テント内での活動で密集等課題が多数あることが指摘され、現在の状況では難しいという意見が多かったです。

ボイス・オブ・ユースについては、昨年度のような形で行うことが望ましいという意見に加え、表彰式は、感染対策を徹底したうえで、あいさつやアトラクションを省略し、来場者の制限や無観客で行うことも提言されました。また、表彰式の模様をSNS配信するという意見もありました。

その他として、次のような意見がありました。

- ・リモートで行える事業を考える。例えば、Zoomを使ったゲーム大会や、青指の活動をSNSに配信する。
- ・ポスターや絵画コンテストを行う。
- ・まつりが中止なので、模擬店の状況を次の世代につなげるという意味で、模擬店講習会を行う。
- ・他区で行った事業を参考にする。(紙ヒコーキ大会など)

今後は、この研修会の意見をもとに南区青少年指導員協議会の事業のあり方について検討して行きます。

(大川、平野、伊東、濱、山田)

2019年12月中国武漢市で報告された新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、早くも翌2020年1月末には日本国内での感染が確認され、3月にはWHOがパンデミックを宣言し、東京五輪も1年の延期を決定、4月には政府が最初の緊急事態宣言を発出、人の移動やイベントの中止を呼びかけました。

この感染症の収束の見通しが見えてこない中で作文朗読、表彰などのイベントは不可能、と判断することとなりました。

しかし、このような状況下で育てている子どもたちの「思い」をとりあげることが大切なのではないか、と作文の募集、選考を行うことといたしました。

応募してくれた作文は、どれもコロナ禍の時代を反映した作品であり、私たちは一編ごとに心を新たに真剣な気持ちで読み進めました。

作文を応募してくださった子どもたち全員にあらためて感謝の気持ちを伝えたいと思います。「みんな ありがとう!」

令和2年度のボイス・オブ・ユースは、コロナ禍の中にあつて開催自体危ぶまれておりましたが、作文の募集、選考は行うこととなりました。ただ、例年であればみなみん(南公会堂)で行う式典や優秀作文の読み上げ等は、残念ながら見送らざるを得ませんでした。

やはり、入選者や来賓者、一般来場者に加えて、ボランティアの小中学生や青少年指導員などのスタッフ等、多くの関係者を集めて行う式典は、感染防止の観点からは難しいと判断されたためでした。

そのような状況であるにも関わらず、997編もの応募があり、われわれ青少年指導員としてはうれしい驚きでした。この数自体は例年に比べれば少ないですが、この春に休校措置がとられたせいで夏休み期間が大幅に短縮されたため、児童・生徒たちにとっては作文を書く時間が例年に比べるとかなり短くなつ

第40回 ボイス・オブ・ユース審査経過報告

募集期間▶ 令和2年8月2日～9月16日

テーマ▶ 私たちのステイホーム

作文応募数▶ 997編

第40回 ボイス・オブ・ユース応募・入選作文総括表

	応募数	入選数
小学生	496編	50編
中学生・高校生・一般	501編	23編
合計	997編	73編

40th VOICE OF YOUTH 青少年の主張



てしまいました。そのため、応募作文の数も大幅に少なくなってしまうものと思っておりましたが、皆さん頑張って書いてくださいました。



応募作文の選考は例年のような1次、2次の段階的实施は無理なため、10月4日(日曜日)に全員選考会を開催しました。当日集合した青少年指導員は79名となり、三密を避けるため、1階の多目的ホールと7階の3つの会議室の4会場での分散実施となりました。

今年は「私のステイホーム」と「その他」の2つのテーマのみでした。コロナの影響に伴う休校によって、自宅での出来事がつぶさに記述された作品が多く見られました。

中には、休校期間中に自宅でゲームに没頭したため、休みが終わる頃に残っている宿題の量に驚いた、といった作文もあり、私は過去の自分の同じような姿を思い出して思わず苦笑してしまいました。

また、普段では取れない時間の中で、自己を新たに見つめなおし、今後の自分の行動への考えを描いた作品もあり、感慨深いものでした。

応募者のさまざまな思いや経験を描いた力作に、共感したり感銘を受けたりしながらの選考となり、本来ならば、優秀作品は舞台上で発表して欲しかったのにとしつつ、いずれも甲乙つけがたく、採点にあたっては苦労しながら行うこととなりました。

10月21日(水)に実施された小・中学校長会において、各学校での表彰を依頼し了解をいただきました。

また全員選考会の後、11月5日に調整会議を行い、小学生の作文50編、中学生の作文23編、合計73編を最終入選作文と決定しました。

作文を応募していただいた学校あてに冊子を、全応募者に記念ロゴ入りのクリアファイルを、また入選者には賞状、記念品をお送りしました。

(今井、内田、黒住)



▲参加賞のクリアファイルと入選者記念品

神奈川県青少年指導員表彰

中村地区 ますだ あつこ
増田 厚子

青少年の思い出は蒔田公園行事でした。小中高の生徒達と前向で言われた事は素晴らしい若さの動きを見せてくれました。私は「ありがとうと又会いましょう、の一言のみでした！」

蒔田地区 やすだ ひろゆき
安田 浩之

「気が付けば20年」というのが実感です。青少年指導員として、自分に何ができたのか、どのような成果を残せたのかは甚だ疑問ですが、もう少し自分を鼓舞して進めそうです。身体が動くうちは続けて行こうと思います。

横浜市青少年指導員永年勤続者顕彰

20年 なかむら はじめ
別所地区 中村 元

青少年指導員として近隣の小中学生等と行事を通して子供達と触れ合って来ました。時が過ぎやがて青年となり子供を成して町内会、地域の活動に理解を示し共に参加してくれる姿を目にすると少しだけ誇らしく感じます。

15年 しむら とみお
太田東部地区 志村 富男

良き仲間に出会い楽しく青指活動を送る事が出来ました。あつという間の15年でした。

皆様には、これからも元気で楽しく青指活動を送って下さい。色々とお世話になりました。感謝申し上げます。

15年 いとう ふじこ
蒔田地区 伊東 富士子

ボランティアに参加した生徒さん達と目線と同じにして楽しく過した15年でした。

15年 なるしま みちお
太田地区 成嶋 道夫

長くて短い15年でした。先輩の方々には、アドバイスを頂き仲間には、ささえてもらいながらの15年です。これからも宜しくお願いいたします。

編集後記

「ニュースタANDARD」

3密禁止。不要不急の外出自粛。マスク着用必須。検温の当然。手洗い・消毒・うがい必須。新しい常識が定着しました。

令和2年度の青指は、ふれあいキャンプ、南まつりが出来ませんでした。幸い年末近い開催のボイス・オブ・ユースは例年と違う形式で行われました。

「出来る」「出来ない」事業があること。今後も「出来る」事業は昨年と同じ基準で行われるのでしょうか。では「出来ない」事業は？今後無くなるのでしょうか。

先日、近隣の学校だよりに掲載されていた一文が私に未来を示してくれました。そこには「できないから始める。」と書かれていました。運動会、遠足など「出来ない」と思われていた行事が創意工夫と人との繋がりにより出来た、という内容でした。

ひいては、青指も「出来ない」を今後の標準にせず「出来る」ことを模索していかねばならないのでは、と私は思いました。

61号に寄稿くださいました新人の方々と一緒に「青指ニュースタANDARD」を始められるよう、そして世の中の変化に対応「出来る」青指でありたいと改めて考えます。

(北永田 加藤)

編集委員

- 広報部会長
 - 六ツ川地区 ▶ 大川 博
 - お三の宮地区 ▶ 岡田 圭司
 - 太田地区 ▶ 稲垣 恵子
 - 太田東部地区 ▶ 今井 馨太郎
 - 寿東部地区 ▶ 築地 徹郎
 - 中村地区 ▶ 平野 直子
 - 蒔田地区 ▶ 上妻 慎
 - 井土ヶ谷地区 ▶ 門井 由美子
 - 南永田・山王台地区 ▶ 山田 智久
 - 北永田地区 ▶ 加藤 春哉
 - 永田みなみ台地区 ▶ 伊東 由一
 - 六ツ川大池地区 ▶ 青木 慶
 - 本大岡地区 ▶ 内田 正幸
 - 大岡地区 ▶ 濱 哲夫
 - 別所地区 ▶ 黒住 直
- 広報部会担当役員
 - 六ツ川大池地区会長 ▶ 伊東 俊一

■ 上半期、青指行事 ■

- 5月16日 南区青少年指導員協議会研修会
- 6月 区内小学校児童支援専任教諭と
中学校生徒指導専任教諭との打合せ会
- 7月 全市一斉統一行動パトロール